

第 110 回 番組審議会・議事録

- 日 時：2025 年 6 月 16 日（月）14 時 00 分～
- 場 所：四ヶ町商店街事務局ビル 4 階会議室
- 課題番組：山口謡司の猫は視ていたニャン（2025 年 4 月 23 日, 30 日放送分）
水、金曜の朝 8 時より 15 分番組
- パーソナリティ：山口謡司
- 番組内容：佐世保弁は良か、一番気持ちの伝わる言葉たい！をテーマに佐世保弁を
紐解いて、言葉の力を皆さんと一緒に探ってゆく番組。大好きな猫の
目線で奇想天外な言葉の世界をガイドします。

審議記録

- Y 委員： 主人が猫好きで、一層、親しみの湧く番組でした。タイトルにある猫の話ももう少し欲しかった。
- Y 委員： 猫嫌いですが、話の内容は楽しかった。まっぼーし、など祖母の話していた佐世保弁に想いが及んだ。中国の歴史、日本の歴史等の一端を垣間見た内容で、何回も聴きたい番組であった
- Y 委員： 私は愛犬家ですが、動物の目線で語る意味では夏目漱石の「吾輩は猫である」を思い出した。構成もしっかりしており、レベルの高いラジオ番組で次回も楽しみ。清朝の科挙の話題、日本の江戸から明治まで話が交差して、それこそ、「なんべんでん」聴きたい番組であった。
- K 委員： 私は猫を飼いながら、叔母と同居している関係で、佐世保弁は日常で、自分自身も佐世保訛りがあります。「どこさん行った？」を始め、佐世保弁の説明は楽しく勉強させて頂きました。また季節感あふれる端午の節句の話題なども入れ混ぜ、和風っぽいトークの中で、選曲が **Over the rainbow** と お洒落感も満載で、ファンになりました。
- F 委員： 15 分間、内容の詰まった内容で虜になります。佐世保弁は我が家では死語になっており英語を聴いているような感じでしたが、話してから都会の洗練された雰囲気と共に地方都市に年配者の言葉になりつつある佐世保弁を検討すべきと思った。
- K 委員長： 核家族化と共に、方言無用論がでる時代だが、内容の詰まった番組で、ストーリーや構成が僧侶の立場でも勉強になった。猫の人生はニャン生、更にエマニエル夫人の話題にも聞き手が耳をそらす暇がなかった。

以上